

FireWood Stove

取扱説明書



アイランド

ISLAND SERIES

ISLAND I -HL	HI-ISL01HL
ISLAND II -HL	HI-ISL02HL
ISLAND III -HL	HI-ISL03HL

コーヴェ

COVE SERIES

COVE 1	HI-COV.01SS-MB
COVE 2	HI-COV.02SS-MB
COVE 3	HI-COV.03SS-MB


目次


1. 安全上の御注意	2
2. 部品の確認と脚の取付方法	4
3. 本体の基礎知識	8
4. 本体及び煙突の設置について	11
5. 製品寸法・分解図	12
アイランドシリーズ	12
AD コーヴェシリーズ	17
6. エコール・薪について	22
7. 薪の着火と燃焼	24
8. エアークントロールと温度計について	28
9. ドラフト管理	29
10. メンテナンス【スケジュール】	31
11. メンテナンス【本体の掃除とお手入れ】	32
12. メンテナンス【煙突の掃除とお手入れ】	35
13. トラブルシューティング	37
14. 保証とアフターサービス	40

1 安全上の御注意

お客様や他人への危害や財産への損害を未然に防ぐために、安全上のご注意を必ずお読みになり、正しくご使用ください。この章に記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告表示について

 **警告** 人が死亡または重傷、財産への損害を与える恐れがあります。

 **注意** 人が怪我または製品に損害を与える恐れがあります。

 **警告**

- しっかりと乾燥させた薪のを使用してください。乾燥していない薪は暖まりにくく、燃やすとクレオソートや煤が多く発生し、煙道火災の原因にもなりかねません。
- 塩水や海水に浸かった流木や、ベンキ、薬品、接着剤など化学処理された木材、ガソリン、オイル、灯油、プラスチック、ビニール、紙類、生ゴミは絶対に燃やさないでください。有機物質の発生、及び、本体や煙突の変形、破損、そして火災の原因となります。
- ストープ本体の上や周辺、及び煙突の周囲には、引火性のあるガソリン、灯油、揮発性のある液体や、スプレー缶などの高圧容器等を置かないでください。
火災や有害物質の発生の原因となります。

- 技術修理者以外の方は、本体や煙突の分解・修理を行わないでください。故障と思われる時は販売店にご相談下さい。
- 事故防止の為に、ご就寝やお出かけの際には、全てのドアが完全に閉まっているか確認してください。また、周囲に燃えやすいものが無いことをご確認ください。
- 薪の入れ過ぎに注意してください。燃焼され過ぎた状態が続くと、本体や煙突が破損する恐れがあります。破損をしなくても劣化が早まりますので、燃焼空気の調整をして、天板の口元付近の温度を250℃前後で保ってください。
- 本体及び煙突の設置は、建築基準法及び消防法、お住まいの地域の火災予防条例に従ってください。
- 灰の処理は、火の気が完全に鎮火したことを確認の上、不燃性の灰入れバケツに入れフタをし、不燃の床、そして可燃物の無い場所に保管してください。72時間以上経過してから、冷えていることを確かめて処理してください。可燃性のある物の上や場所に保管しますと、熱が伝わり火災の原因となります。
- 万が一煙突火災が発生した場合には、速やかに各ドア及び空気調整レバーを閉じて屋外へ避難し、消防署に連絡してください。後に必ず専門業者に点検を依頼してください。
- 灰受けドアを開けたまま使用しないでください。空気が調節できずに過燃焼となり、本体の破損や火災の原因となります。

- 大きな地震や落雷があった場合、破損や変形を生じている可能性があります。ご使用前に本体や煙突の点検を必ず行ってください。異常が見つかった場合は、ご使用にならずお買い求めの店までご相談ください。



注意

- ご使用中に各ドアを開けたまま本体のそばから離れないでください。火の粉が飛ぶ恐れや、薪が転がり落ちてくる危険性がありますので、必ず扉が閉まっていることを確認してください。
- 灰の処理は、ストーブ本体が冷えている状態で行ってください。火傷の原因となります。
- 定期的に本体や煙突のメンテナンスを行ってください。使用しているうちにススが溜まり、それが多くなると、引火して煙道火災などの事故が起こる可能性があります。少なくとも1年に1回はメンテナンスを行ってください。
- お子様をストーブに近づけないでください。火傷や怪我の危険があります。あらかじめ、薪ストーブ用ゲージを設けることをお勧めします。
- 本体、煙突に強い衝撃や温度に力を与えないでください。
- ストーブの使用方法については、付属の取扱説明書をお読みください。
- ご使用中は本体や煙突が非常に高温になりますので、火傷には十分御注意ください。
- ドアの開閉や薪の投入など、燃焼中に本体の操作を行う場合は、専用の皮製ストーブ用グローブをご使用ください。
- ストーブを焚き始める前には、必ず慣らし炊きを行ってください。初めから高温で使用してしまうと、破損の原因となります。
- 焚きはじめての数回は、お部屋を換気しながら行ってください。本体と煙突に塗られている塗料が熱せられ、煙とともに臭いが発生します。
- 非常時に備え、消火器や煙感知器を設置することをお勧めします。
- ご使用中、万が一火傷を負った場合は、応急処置として、すぐに患部を流水にて15分以上冷やしてください。
なおその際、強い水圧は当てないでください。

2 部品の確認と脚の取付方法

ISLAND SERIES

部品の確認

炉内の部品を全て取り出し、下記の部品が入っているかを確認してください。

- ストープ本体
- 脚(納品時取り付けられています)…………… 4
- 口元 …………… 1
- バッフルプレート …………… 1
- 灰受トレイ …………… 1
- ナット(口元接続用)…………… 2
- 火床 ・アイランド I -HL…………… 10
 ・アイランド II -HL…………… 12
 ・アイランド III -HL…………… 16
- ハンドル …………… 1
- 転び止め ……………(2コ/セット)
- サイドプレート …………… 2
- バックプレート …………… 1
- ガスケットローブ(口元用)
 (100cm×幅12mm)…………… 1



注意

不足部品や欠陥部品があった場合は、すぐにアドヴァンに連絡してください。必要な部品が無いまま、あるいは欠陥部品を使用してストーブを組み立てることは、決して行わないでください。

ストアースタンドを取り付けない場合

1 傾ける。



2 増し締め。



温度計

天板の口元付近が200~250℃を目安に焚いてください。

300℃以上を継続して使用すると、ストーブ本体の破損の原因となります。

ストーブスタンドを取り付ける場合

1 梱包を開けた状態。

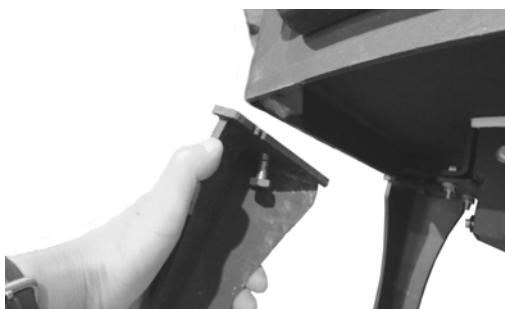


2 傾ける。



ストーブを傾ける際、毛布などの柔らかい物の上に、背中を下にして置いて下さい。大変重いストーブですので、十分に気を付けて行ってください。ストーブの下に角材などを挟みますと、作業がしやすくなります。

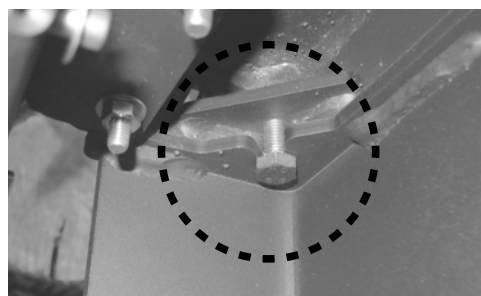
3 取り外す。



4 本体とストーブスタンドをセットする。重量物の為、指や手を、はさまないように御注意ください。



5 ボルトを締め込んで完成。



脚を所定の位置にあてがい、ボルトを締め付けてください。あまり強く締めてしまいますと、ネジ山を壊す原因になりますので、十分にお気を付けてください。

※ストーブスタンドを使わずに使用する場合は、ボルトを必ず増し締めください。

2 部品の確認と脚の取付方法

部品の確認と脚の取付方法

COVE SERIES

部品の確認

炉内の部品を全て取り出し、下記の部品が入っているかを確認してください。

- ストープ本体
- 脚(ストアースタンド).....1
- 口元 1
- バッフルプレート 1
- 灰受トレイ 1
- ナット(口元接続用)..... 2
- 火床・コーベ1..... 10
 - ・コーベ2..... 12
 - ・コーベ3..... 16
- ハンドル 1
- 転び止め(2コ/セット)
- サイドプレート 2
- バックプレート 1
- ガasketローブ(口元用)
(100cm×幅12mm)..... 1



注意

不足部品や欠陥部品があった場合は、すぐにアドヴァンに連絡してください。必要な部品が無いまま、あるいは欠陥部品を使用してストーブを組み立てることは、決して行わないでください。

温度計

天板の口元付近が200~250℃を目安に焚いてください。

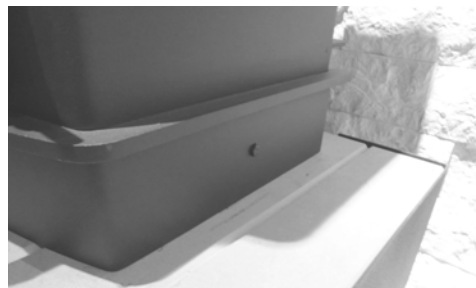
300℃以上を継続して使用すると、ストーブ本体の破損の原因となります。

ストアースタンドの取付方

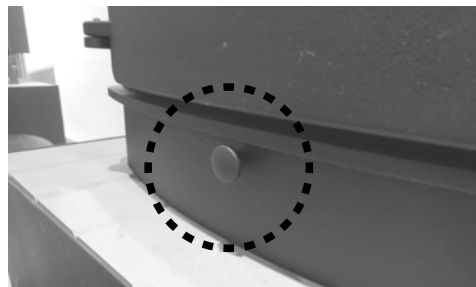
1 梱包を開けた状態。



2 ボルトを取り外す。(両サイド)



3 つまみを回転させて取り外す。
幅木を手前に引き外す。



4 ストアースタンドを用意。



5 4の脚の上へ乗せて、完成。

重量物の為、指や手を、はさまないように
御注意ください。



脚を所定の位置にあてがい、ボルトを締め付けてください。あまり強く締めてしまいますと、ネジ山を壊す原因になりますので、十分にお気を付けください。

※脚を使わずに使用する場合は、ボルトを必ず増し締めください。



ストーブ本体とストアースタンドを接続する際、床を傷つけないよう、毛布などの柔らかい物の上で取付作業を行ってください。大変重いストーブですので、十分に気を付けて行ってください。

3 本体の基礎知識

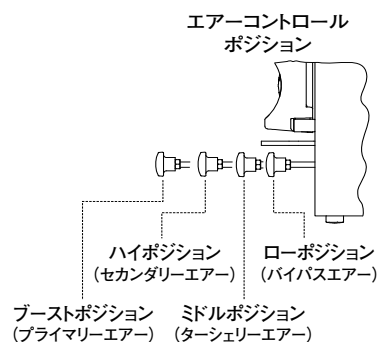
クワトロフロー・エアー マネージメントシステム

「チャンウッド」が特許を持つ画期的な空気管理システムは、「アイランドシリーズ」、「コーヴェシリーズ」、「TORシリーズ」に採用されています。

4段階空気調整「クワトロフロー」

指1本で簡単操作。炎を調節、再燃焼もスピーディー

Quattroflow Air Management System*で、大きく力強い炎から、小さなやさしい炎まで1本のレバー操作で最適に調整できます。



本体の基礎知識



1

ブーストポジション プライマリーエアー

着火時に使用してください。
プライマリーエアーのまま燃焼し続けると、火力が強すぎてストーブ本体をいためますので、着火後は空気をしばってご使用ください。



2

ハイポジション セカンダリーエアー

ガラスのクリーニングと二次燃焼の役目をします。



3

ミドルポジション ターシェリーエアー

燃焼室上部から下方向へ空気を送ります。上昇しようとする煙を再び燃焼させ、効率的なクリーンバーニングを実現します。
通常のポジションです。



4

ローポジション バイパスエアー

バイパスエアーによるオーバーナイトバーニング。余熱を煙道に送り、結露を防ぎます。

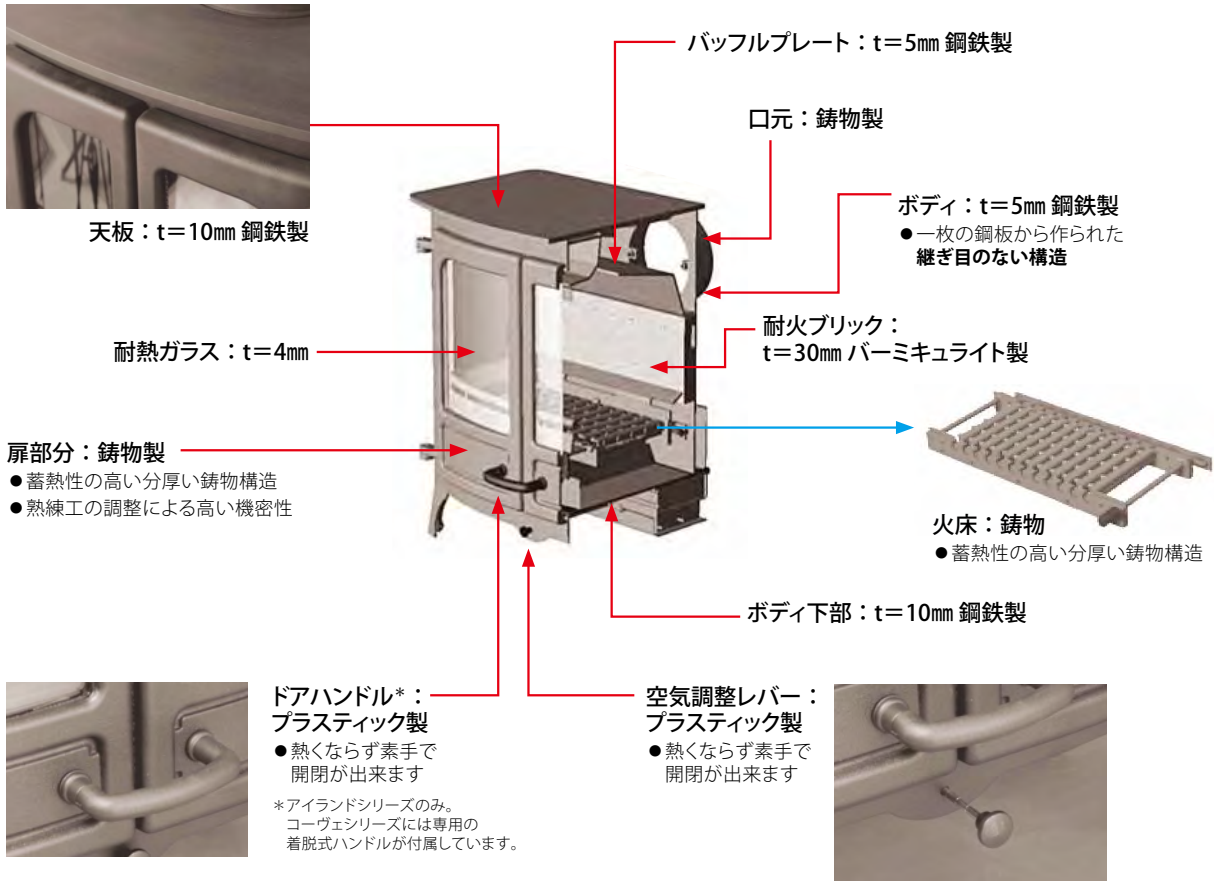
エアーウォッシュシステム

ストーブ後方からの給気が燃焼部の上を通過して高温に熱せられ、ドアガラスの上から勢よく流れます。この強力な熱風のエアーカーテンがドアガラスに煤や汚れがつくのを防いで、きれいな状態を保ちます。炎の状態を確認しやすく、いつもクリアな炎を楽しむことができます。

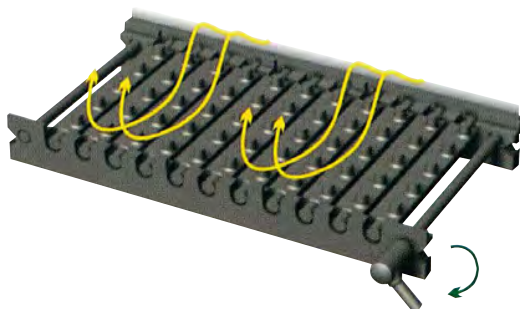
クリーンバーニングシステム

一次燃焼で初期燃焼を促進させ、二次燃焼では燃えた炎をさらに燃焼させます。さらに三次燃焼で上昇しようとする煙を再燃焼させることで、効率的なクリーンバーニングを実現。きれいな排気によって環境への影響も少なくなっています。

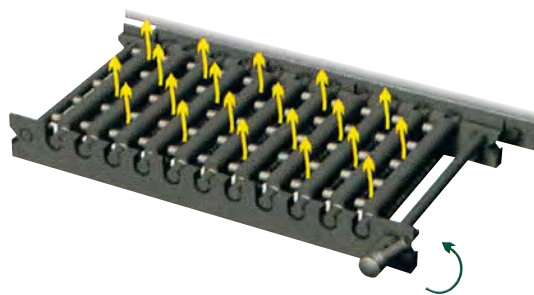
構造・特徴



多機能火床



クローズド・ポジション (新用)
通常使用時です。灰がつもり火床を保護し後方からの空気で燃焼させます。

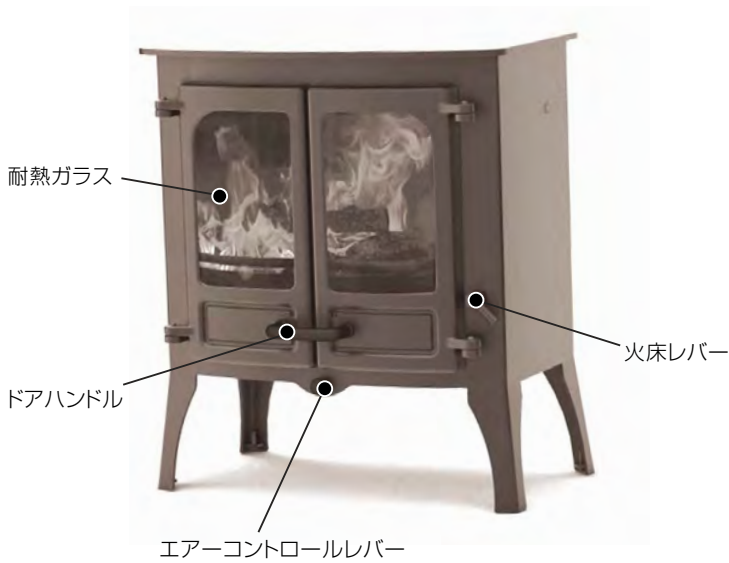


オープン・ポジション (エコル用)
下部からの空気で燃焼させます。灰を掃除する時にも使います。

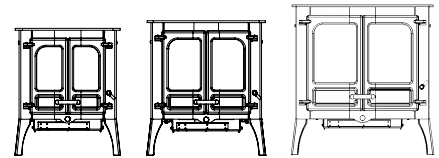
3 本体の基礎知識

本体の基礎知識

各部名称



アイランド I-HL アイランド II-HL アイランド III-HL



転び止め



薪がガラスに触れてしまうと煤が付きます。転び止めより奥で燃やすことにより、いつも視界をキレイに保ちます。

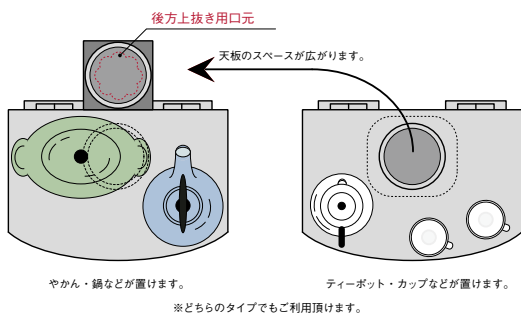
オープン



別売りのクッキングスタンドをストーブの炉内に置く事で本格的なオープン料理を楽しめます。

後方上抜き口元

アドヴァン後方上抜き口元を使用すれば、薪ストーブの上でヤカンやお鍋など温められます。

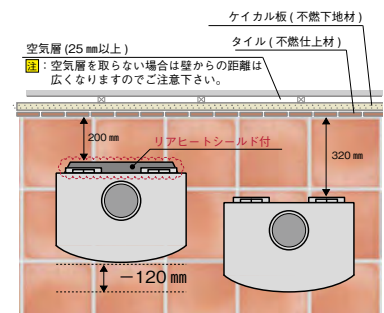


後方抜き口元

天板のスペースが広がるのでヤカンやお鍋を温められて、火力を強くすればお料理もできます。

リアヒートシールド

リアヒートシールドを使用すれば、薪ストーブを壁に寄せて使用することができます。



※リアヒートシールド付

煙突設置の基礎知識

レンガ・石造りの煙突

薪ストーブは、自然の上昇気流(ドラフト)だけで燃焼し、煙を排出しています。その為、薪ストーブを正常に燃焼させ、スムーズに排煙を行えるようにするには、正しい煙突の設置が非常に重要となります。新築の住宅に取り付ける場合は、ストーブ設置業者、工務店と相談の上、設計の早い段階で組み込むようにし、無理の無い設置をしましょう。

煙突の設置方法

煙突は真っ直ぐ立ち上げる方法が理想的です。2階に部屋がある場合や、屋根が瓦などの場合、どうしても、曲げて壁から出す方法を考えがちですが、囲いを作り、角トップチムニーフラッシングでの設計をお勧めします。しかし、やむを得ず壁から出す場合は、出来るだけ横引き部分を短くし、(1m以内)、曲がりの使用をできるだけ少なくすることが必要です。シングル煙突では、天井や壁は貫通させないでください。必ず二重煙突をご使用ください。

メンテナンス

薪ストーブの性能を持続する為には、煙突の煤やゴミを定期的に取り除く必要があります。使用状況や使用する薪の種類によって様々ですが、最低でも1年に1回は煙突掃除を行うことをお勧めします。

煙突の設置場所と高さ

設置条件等から煙突の設置場所が決まると、次は煙突を何処くらいの高さまで延ばせば良いのかという段階になります。薪ストーブを正常に燃焼させるためには、本体からトップまで4m以上の煙突が必要となります。

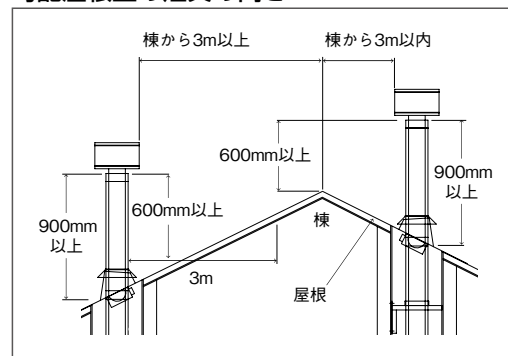
横引き煙突がある場合は、横引き1に対してその後の煙突は3~4必要となります。この時は必ず、屋根よりも高い位置に伸ばすようにすることが大事です。しかし、この高さは屋根の勾配や棟からの位置によって異なるので、その場合は下の図を参考にしてください。

急勾配屋根の場合、この条件を満たすことが困難な場合があります。その場合は、できるだけ棟に近い位置に設置するようにしてください。

しかし、これらの条件を満たしたとしても、設置箇所近くに背の高い木や建築物がある場合は、乱気流が発生し煙の逆流現象が起こる場合もあります。

そのような時は、更に煙突を伸ばす必要があります。

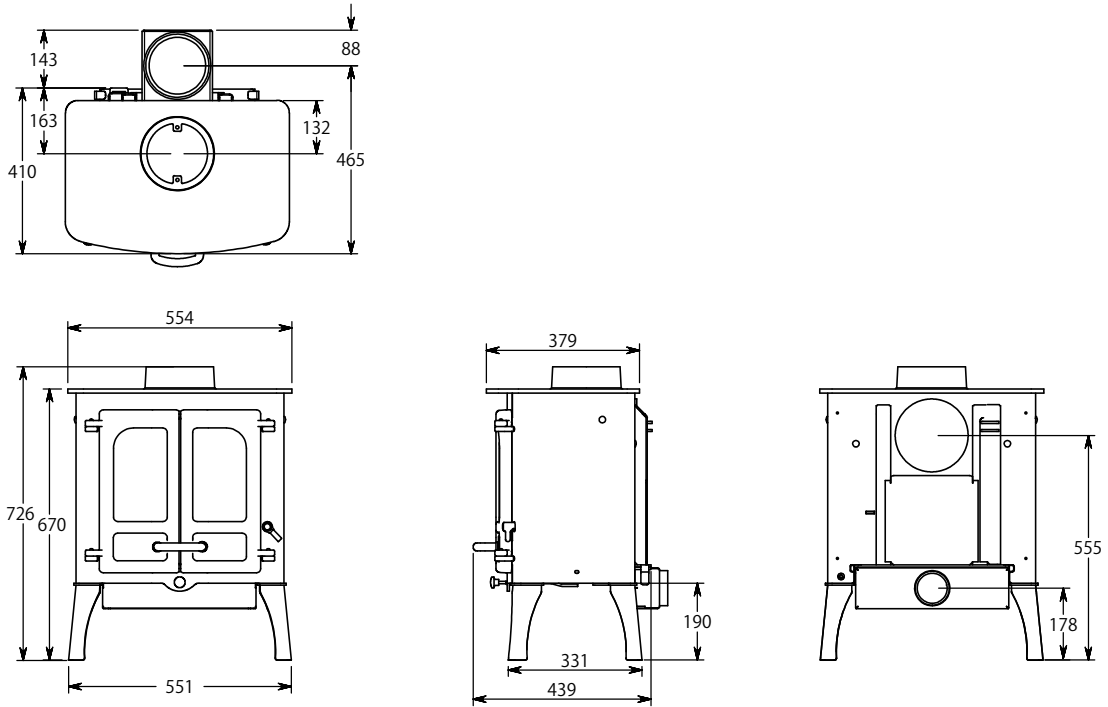
勾配屋根上の煙突の高さ



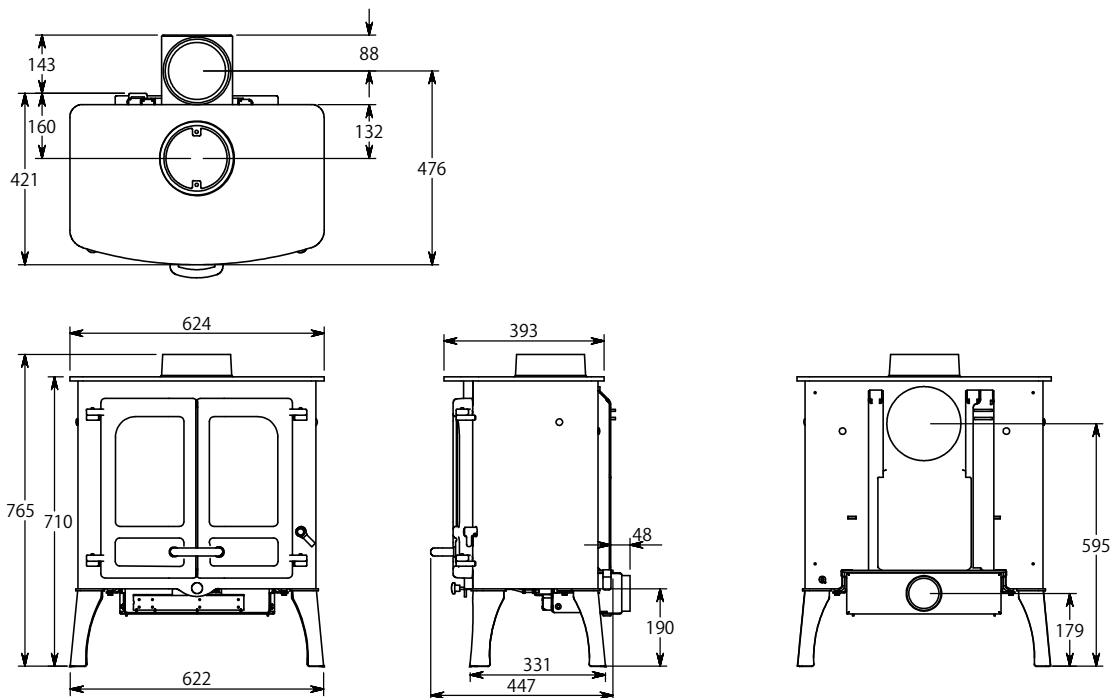
5 製品寸法・分解図

アイランドシリーズ

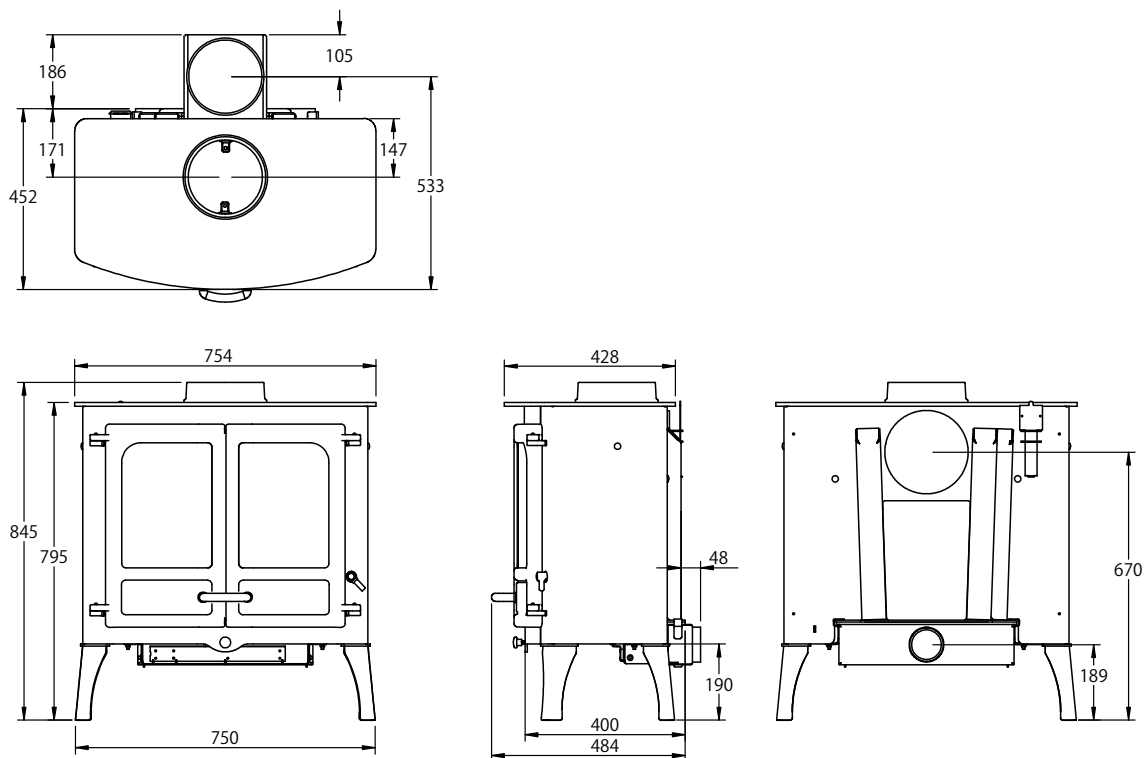
●アイランド I-HL (HI-ISLO1HL) 寸法図



●アイランド II-HL (HI-HI-ISLO2HL) 寸法図



●アイランドⅢ-HL(HI-ISLO3HL)寸法図

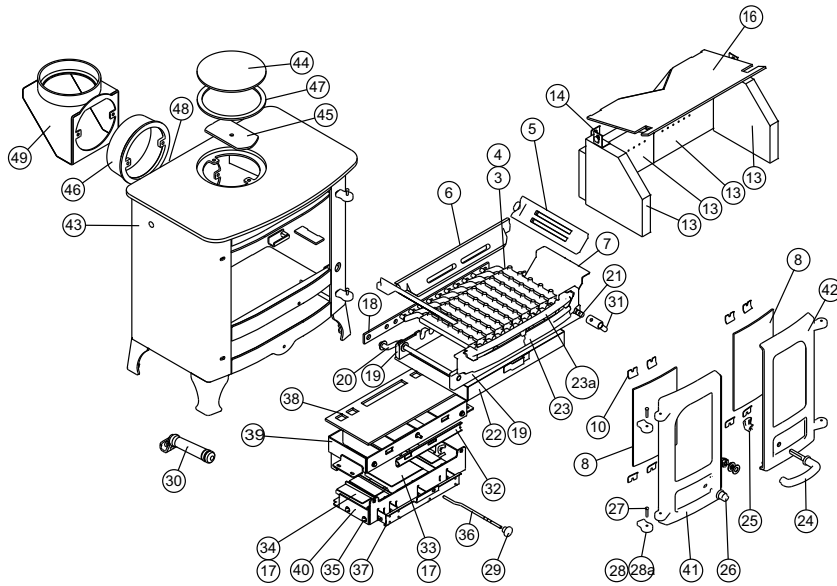


製品寸法・分解図

5 製品寸法・分解図

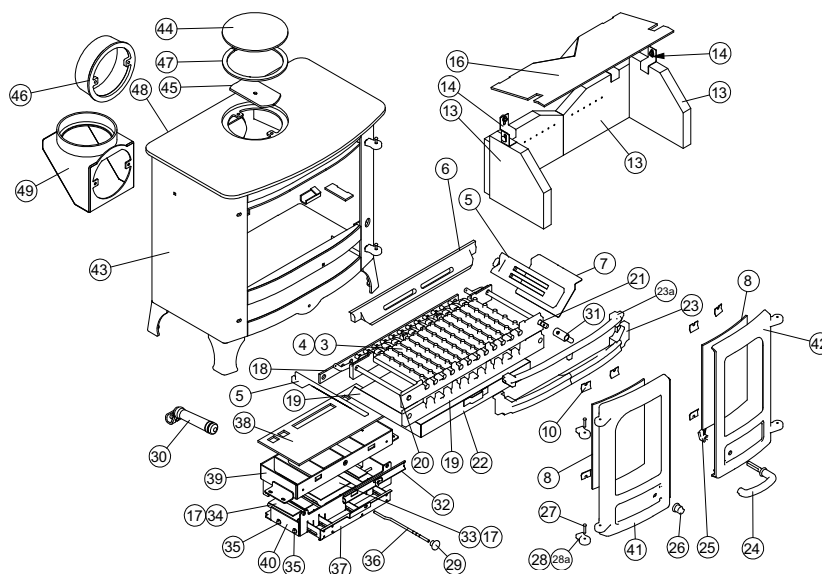
アイランドシリーズ

●アイランド I-HL(HI-ISLO1HL)分解図



- | | | |
|-------------|-----------------------|----------------|
| 3 火床バー | 24 ドアハンドル | 44 ブランキングプレート |
| 5 燃烧室横板 | 25 ドアキャッチ | 45 クランピングプレート |
| 6 燃烧室後部板 | 26 ドアノブ | 46 レジュサー |
| 7 灰除け板 | 27 ヒンジピン | 47 煙道スペースリング |
| 8 ガラス | 28 ヒンジポスト | 48 シリアルナンバーラベル |
| 9 ガラスシェル | 29 エアコントロールノブ | 49 後方排気アダプター |
| 10 ガラス止め金具 | 30 取り外しハンドル | |
| 11 後部耐火レンガ | 31 リダーノブ | |
| 12 横部耐火レンガ | 32 エアバイパスサイド | |
| 13 レンガ固定金具 | 33 一次空気取入板 | |
| 14 止金具 | 34 二次空気取入板 | |
| 15 接続金具 | 35 フラップマウント | |
| 16 バッフルプレート | 36 空気調節ロッド | |
| 17 空気取入口パッド | 37 アクチュエーターアッセンブリー | |
| 18 可動バー | 38 アッパークアトロボックスガasket | |
| 19 キャリアバー | 39 アッパークアトロボックス | |
| 20 アイドラーロッド | 40 ロアークアトロボックス | |
| 21 リダーロッド | 41 ドア 左 | |
| 22 灰受け皿 | 42 ドア 右 | |
| 23 フロントバー | 43 ストーブ本体 | |

●アイランド II-HL (HI-HI-ISLO2HL)分解図

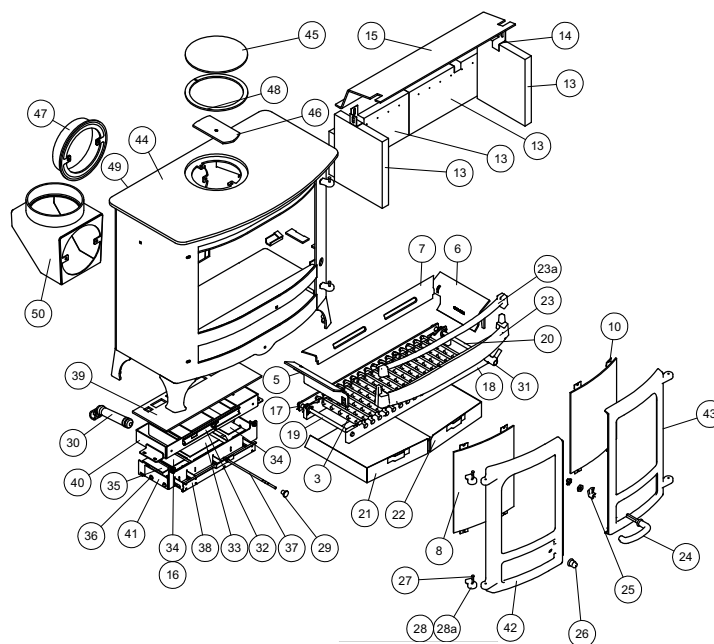


- | | | |
|-------------|-----------------------|----------------|
| 3 火床バー | 24 ドアハンドル | 44 ブランキングプレート |
| 5 燃焼室横板 | 25 ドアキャッチ | 45 クランピングプレート |
| 6 燃焼室後部板 | 26 ドアノブ | 46 レジュサー |
| 7 灰除け板 | 27 ヒンジピン | 47 煙道スペースリング |
| 8 ガラス | 28 ヒンジポスト | 48 シリアルナンバーラベル |
| 9 ガラスシェル | 29 エアコントロールノブ | 49 後方排気アダプター |
| 10 ガラス止め金具 | 30 取り外しハンドル | |
| 11 後部耐火レンガ | 31 リダーノブ | |
| 12 横部耐火レンガ | 32 エアバイパスサイド | |
| 13 レンガ固定金具 | 33 一次空気取入板 | |
| 14 止金具 | 34 二次空気取入板 | |
| 15 接続金具 | 35 フラップマウント | |
| 16 バッフルプレート | 36 空気調節ロッド | |
| 17 空気取入口パッド | 37 アクチュエーターアッセンブリー | |
| 18 可動バー | 38 アッパークアトロボックスガasket | |
| 19 キャリアバー | 39 アッパークアトロボックス | |
| 20 アイドラーロッド | 40 ロアークアトロボックス | |
| 21 リダーロッド | 41 ドア 左 | |
| 22 灰受け皿 | 42 ドア 右 | |
| 23 フロントバー | 43 ストープ本体 | |

5 製品寸法・分解図

アイランドシリーズ

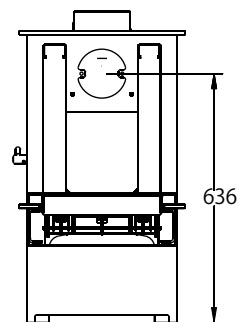
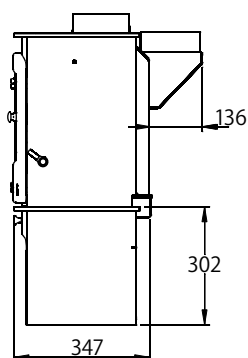
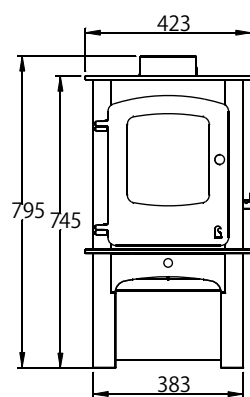
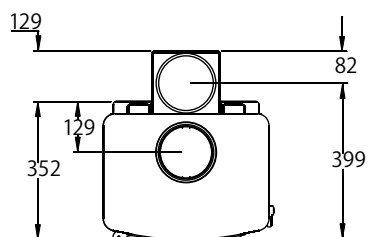
●アイランド III-HL(HI-ISLO3HL)分解図



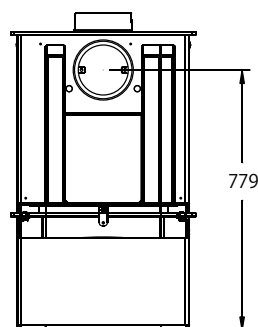
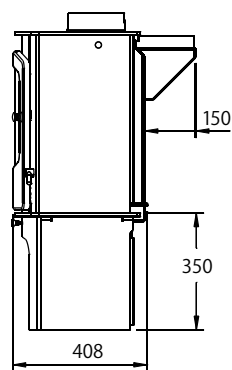
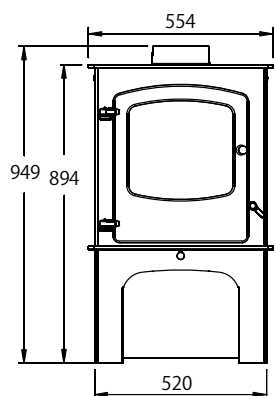
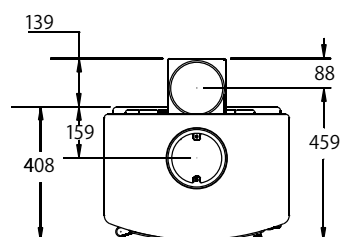
- | | | |
|-------------|----------------------|----------------|
| 3 火床バー | 24 ドアハンドル | 44 ストープ本体 |
| 5 燃烧室横板 | 25 ドアキャッチ | 45 ブランキングプレート |
| 6 燃烧室後部板 | 26 ドアノブ | 46 クランピングプレート |
| 7 灰除け板 | 27 ヒンジピン | 47 レジューサー |
| 8 ガラス | 28 ヒンジポスト | 48 煙道スペースリング |
| 9 ガラスシェル | 29 エアコントロールノブ | 49 シリアルナンバーラベル |
| 10 ガラス止め金具 | 30 取り外しハンドル | 50 後方排気アダプター |
| 11 後部耐火レンガ | 31 リダーノブ | |
| 12 横部耐火レンガ | 32 エアバイパスサイド | |
| 13 レンガ固定金具 | 33 一次空気取入板 | |
| 14 止金具 | 34 二次空気取入板 | |
| 15 接続金具 | 35 エアバイパスフラップ | |
| 16 パッフルプレート | 36 フラップマウント | |
| 17 空気取入口パッド | 37 空気調節ロッド | |
| 18 可動バー | 38 アクチュエーターアッセンブリー | |
| 19 キャリアバー | 39 アッパークアトロボックスガスケット | |
| 20 アイドラーロッド | 40 アッパークアトロボックス | |
| 21 リダーロッド | 41 ロアークアトロボックス | |
| 22 灰受け皿 | 42 ドア 左 | |
| 23 フロントバー | 43 ドア 右 | |

ADコーヴェシリーズ

●ADコーヴェ1 (HI-COV.01SS-MB) 寸法図



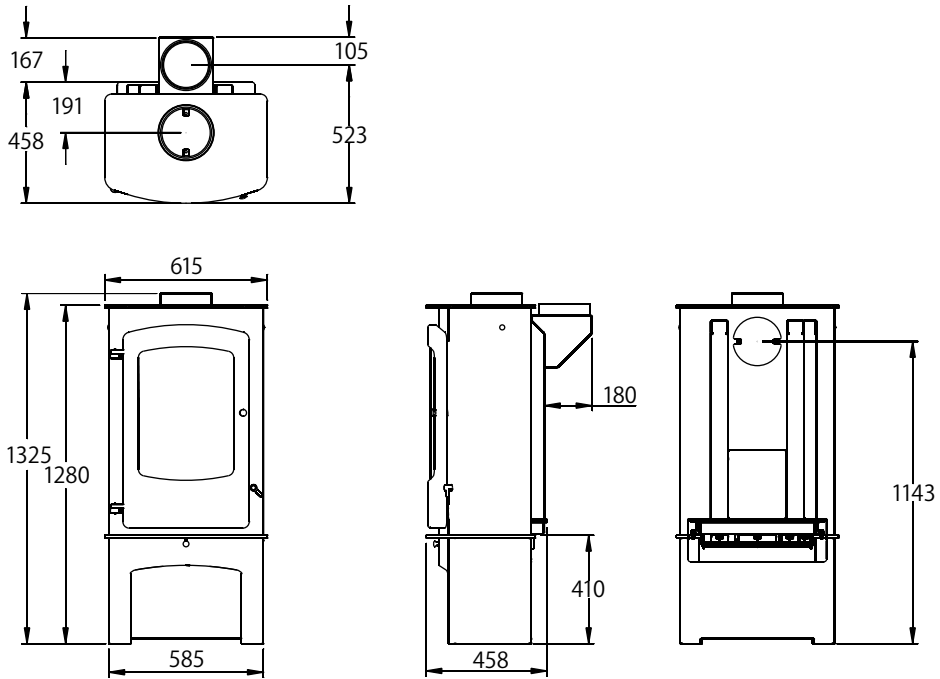
●ADコーヴェ2 (HI-COV.02SS-MB) 寸法図



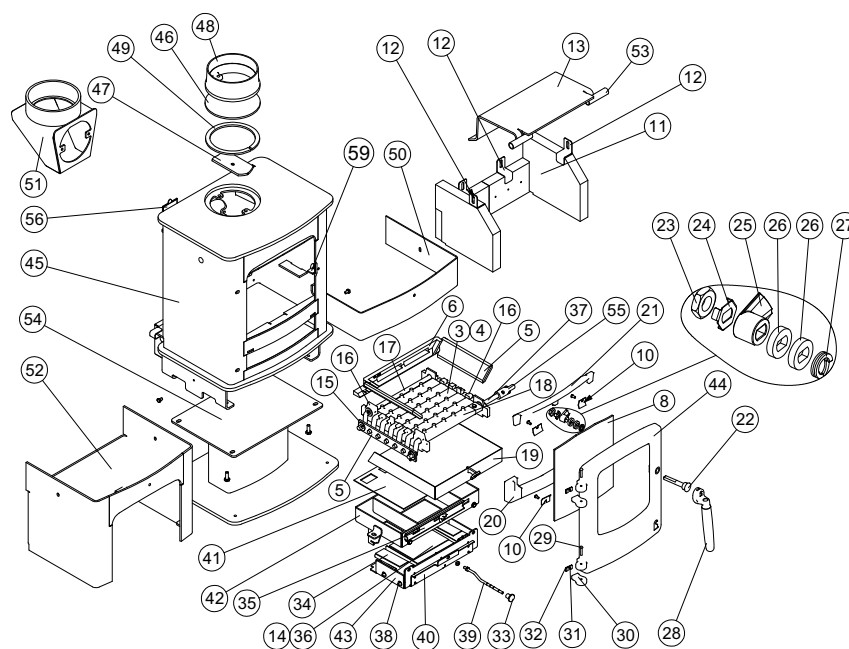
5 製品寸法・分解図

ADコーヴェシリーズ

●ADコーヴェ3(HI-COV.03SS-MB)寸法図



●ADコーヴェ1 (HI-COV.01SS-MB)分解図

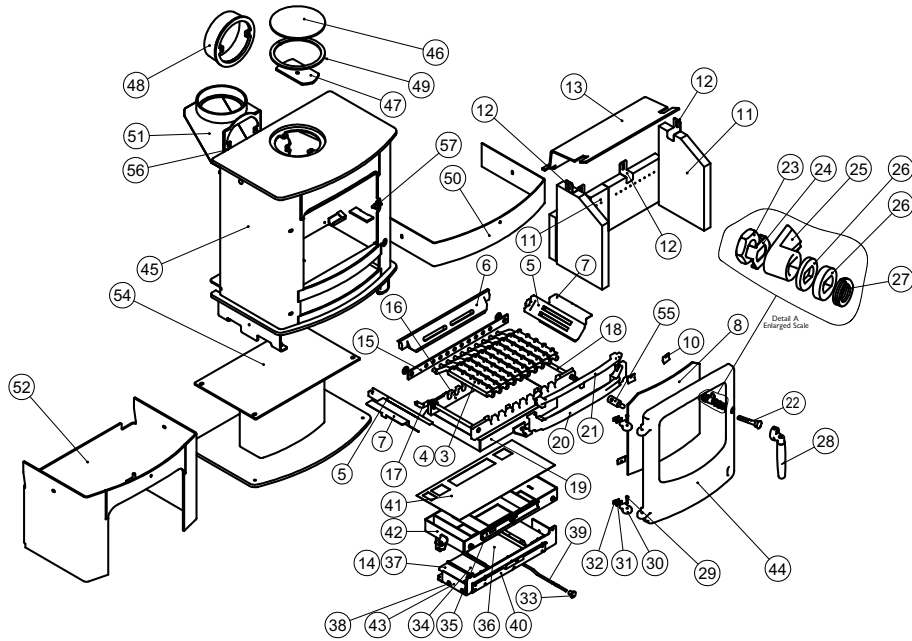


- | | | |
|--------------|-------------------|----------------|
| 3 火床バー | 24 タップドロックワッシャー | 44 ドア |
| 5 燃焼室横板 | 25 ドアキャッチ | 45 燃焼ボックス |
| 6 燃焼室後部板 | 26 ドアキャッチストップ | 46 ブランキングプレート |
| 8 ガラス | 27 ドアスプリング | 47 クランピングプレート |
| 10 ガラス止め金具 | 28 ハンドルレバー | 48 レジューサー |
| 11 耐火レンガ | 29 ヒンジピンセット | 49 煙道スペーサーリング |
| 12 レンガ止め金具 | 30 ヒンジポスト | 50 ロースタンド |
| 13 バッフルプレート | 31 ヒンジポストシム1mm | 51 後方排気アダプター |
| 14 空気取入れ装置 | 32 ヒンジポストシム2mm | 52 スタアスタンド |
| 15 ムーブバー | 33 エアコントロールノブ | 54 センタースタンド |
| 16 キャリーバー | 34 二次空気取入板 | 55 リドラーノブ |
| 17 アイドラーロッド | 35 エアパイパスサイド | 56 シリアルNo.プレート |
| 19 灰受け皿 | 36 一次空気取入板 | |
| 20 燃焼室バー | 38 フラップ取付けロッド | |
| 21 ディーペニングバー | 39 エアコントロールロッド | |
| 22 ドアスピンドル | 40 アクチアーターアッセンブリ | |
| 23 スピンドルナット | 41 アッパーボックスガasket | |
| | 42 アッパーボックス | |
| | 43 ローアボックス | |

5 製品寸法・分解図

ADコーヴェシリーズ

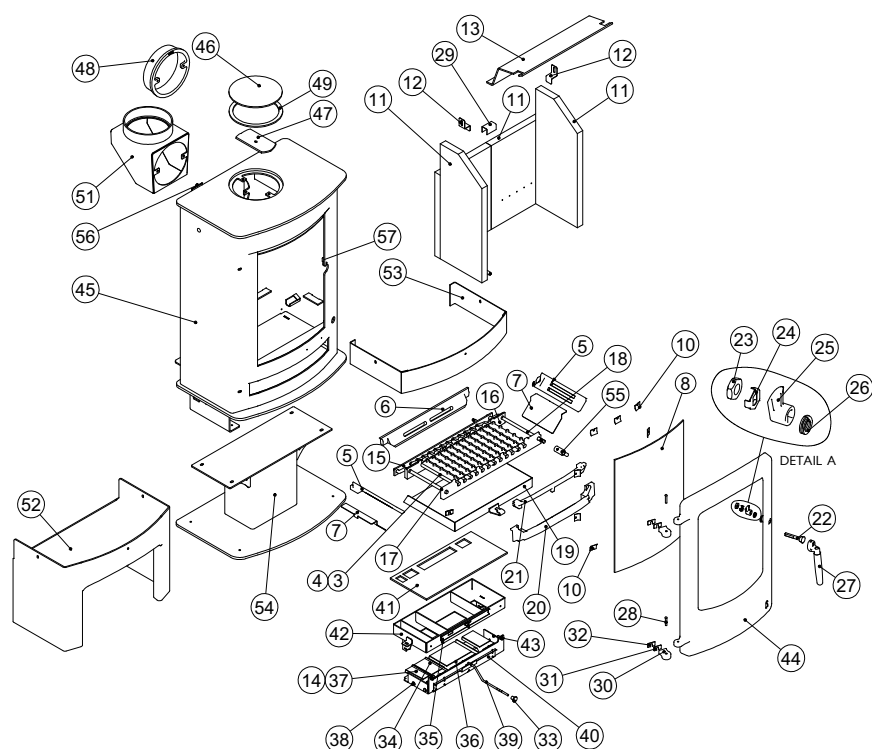
●ADコーヴェ2(HI-COV.02SS-MB)分解図



製品寸法・分解図

- | | | |
|--------------|-------------------|----------------|
| 3 火床バー | 24 タップドロックワッシャー | 44 ドアー |
| 5 燃焼室横板 | 25 ドアキャッチ | 45 燃焼ボックス |
| 6 燃焼室後部板 | 26 ドアキャッチストップ | 46 ブランキングプレート |
| 7 灰除け板 | 27 ドアスプリング | 47 クランピングプレート |
| 8 ガラス | 28 ハンドルレバー | 48 レジャーサー |
| 9 ガラスシェル | 29 ヒンジピンセット | 49 煙道スペーサーリング |
| 10 ガラス止め金具 | 30 ヒンジポスト | 50 ロースタンド |
| 11 耐火レンガ | 31 ヒンジポストシム1mm | 51 後方排気アダプター |
| 12 レンガ止め金具 | 32 ヒンジポストシム2mm | 52 スタアスタンド |
| 13 パッフルプレート | 33 エアーコントロールノブ | 54 センタースタンド |
| 14 空気取入れ装置 | 34 二次空気取入板 | 55 リドラーノブ |
| 15 ムーブバー | 35 エアーバイパスサイド | 56 シリアルNo.プレート |
| 16 キャリーバー | 36 一次空気取入板 | |
| 17 アイドラーロッド | 37 バイパスエアフラップ | |
| 18 リダーロッド | 38 フラップ取付けロッド | |
| 19 灰受け皿 | 39 エアーコントロールロッド | |
| 20 燃焼室バー | 40 アクチアーターアッセンブリ | |
| 21 ディーペニングバー | 41 アッパーボックスガasket | |
| 22 ドアスピンドル | 42 アッパーボックス | |
| 23 スピンドルナット | 43 ローボックス | |

●ADコーヴェ3(HI-COV.03SS-MB)分解図



- | | | |
|--------------|-------------------|----------------|
| 3 火床バー | 24 タップドルッキングワッシャー | 44 ドアー |
| 5 燃焼室横板 | 25 ドアキャッチ | 45 燃焼ボックス |
| 6 燃焼室後部板 | 26 ドアキャッチストップ | 46 ブランキングプレート |
| 7 灰除け板 | 27 ドアスプリング | 47 クランピングプレート |
| 8 ガラス | 28 ハンドルレバー | 48 レジャーサー |
| 9 ガラスシェル | 29 ヒンジピンセット | 49 煙道スペーサーリング |
| 10 ガラス止め金具 | 30 ヒンジポスト | 50 ロースタンド |
| 11 耐火レンガ | 31 ヒンジポストシム1mm | 51 後方排気アダプター |
| 12 レンガ止め金具 | 32 ヒンジポストシム2mm | 52 ストアスタンド |
| 13 バッフルプレート | 33 エアーコントロールノブ | 54 センタースタンド |
| 14 空気取入れ装置 | 34 二次空気取入板 | 55 リドラーノブ |
| 15 ムーバー | 35 エアーバイパスサイド | 56 シリアルNo.プレート |
| 16 キャリーバー | 36 一次空気取入板 | |
| 17 アイドラーロッド | 37 バイパスエアフラップ | |
| 18 リダーロッド | 38 フラップ取付けロッド | |
| 19 灰受け皿 | 39 エアーコントロールロッド | |
| 20 燃焼室バー | 40 アクチアーターアッセンブリ | |
| 21 ディーペニングバー | 41 アッパーボックスガasket | |
| 22 ドアスピンドル | 42 アッパーボックス | |
| 23 スピンドルナット | 43 ローアボックス | |

6 エコール・薪について

薪の基礎知識

薪となる木は広葉樹と針葉樹とに分けることができます。広葉樹は密度が高く、火もちが良いことから、広く使用されています。針葉樹は広葉樹と比べると密度が低く、樹脂や精油成分が多く含まれているためカロリーが高いので着火性が良く、焚きつけに優れています。しかし、火持ちが良くありません。また、煙突にタールが溜まりやすく掃除が大変です。

広葉樹

長時間ゆっくりと燃やす薪



ナラ

手に入り易く、とても火持ちが良い。



サクラ

ほど良い薫りで火持ちも良い。

その他の広葉樹

リンゴ、ブナ、カシ、シラカバ

針葉樹

焚きつけ用：着火の際に使用します。



スギ・ヒノキ

燃えやすく、着火に適しています。

その他の針葉樹

モミ、アカマツ、カラマツ

一般的に薪のサイズは36~40cm。一束は7~8kgです。

薪を入手するには

アドヴァンダイレクト《ネット通販》から購入いただけます。

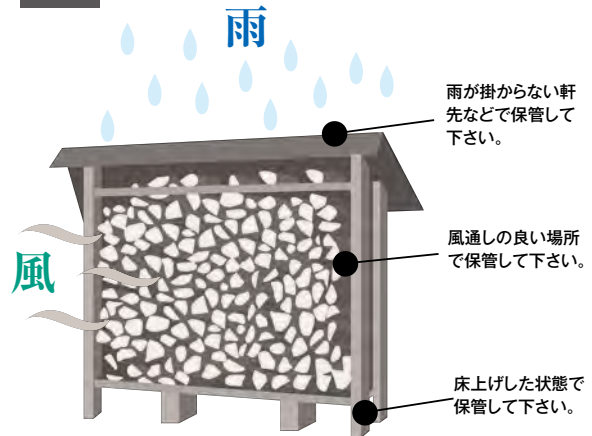
<http://www.advan.co.jp>

その他の入手方法

- 地元の森林組合に問い合わせで購入する。
- 果樹園で伐採された木を交渉し、譲ってもらう。
- 山林地主に間伐材を交渉し、譲ってもらう。
- 新築工事があれば、大工さんにかけて、端材を譲ってもらう。

薪の保存方法

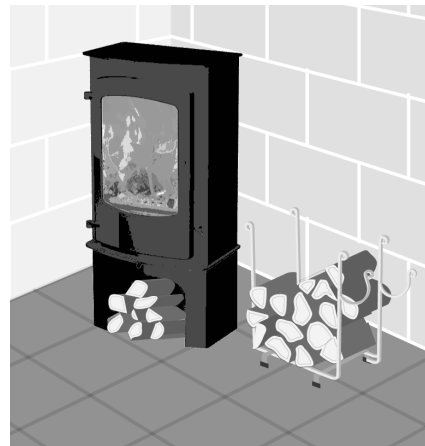
屋外



購入する薪は、すくなくとも1年以上乾燥させたものをおすすめします。

薪の含水率20%以下のものをご使用ください。

屋内



室内に薪置きを設置し、1~2日分をストックしておきます。



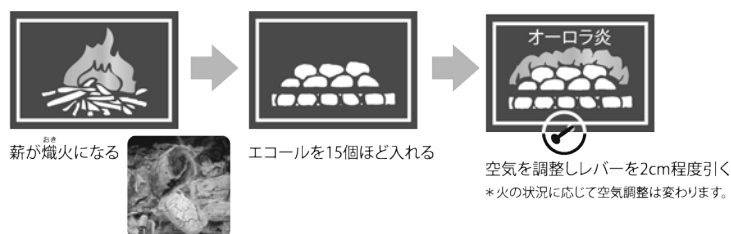
乾燥していない薪は使用しないで下さい。薪ストーブの性能を十分に引き出す事ができず、ストーブが暖まらにくく、クレオソートが多く発生し、煙突内に付着してしまい、「煙道火災」の原因となります。

また、腐ったり、化学処理された木は使用しないで下さい。薪ストーブ及び煙突をいためる原因となります。

エコールについて

エコールとはオリーブオイル製造時の絞りきった実を乾燥させて石炭と混ぜ合わせたチャーンウッド社専用品石炭です。イギリスチャーンウッド社薪ストーブは、本国では石炭を燃やせるほど丈夫なストーブです。(石炭は薪よりも高温になります。)
 ※チャーンウッド社 専用の為、使用できる薪ストーブはアイランドシリーズ、コヴェンシリーズ、カントリーシリーズ、シーシリーズに限りです。
 ※火床を石炭モードにてご使用下さい。

エコールの正しい使い方



原材料：石炭70%
オリーブ30%

エコールと薪の比較



薪より6倍も長持ち

薪一束6kg→約3時間燃焼
 エコール6kg→約18時間燃焼



煙が少ないので 近隣への心配無く使える

都内で薪ストーブや暖炉を使用する事は全く問題ないのですが、煙突からの煙が近所様への迷惑だと諦める方も多いのではないのでしょうか？ エコールを使用すると、無煙なのでご家族と共に安心して薪ストーブを楽しむ事ができます。



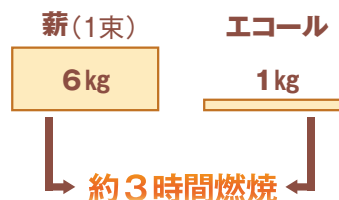
おき 熾火が長持ち 着火がラクラク

エコールは、一度燃焼すると長時間その炎が熾火となります。夜は熾火の暖かさで眠り、朝は熾火に薪を焼べ一気に部屋を暖める事ができます。

薪の約1/3の価格です！

エコール販売価格
 1,980円/袋(10キロ)…60円/h
 薪販売価格
 500円/袋(6キロ)…166円/h

薪とエコールを併用すれば、月々の燃料費は安く済みます。



アドヴァンダイレクト<<ネット通販>>から、24時間ご注文をいただけます。

<http://www.advan.co.jp>

7 薪の着火と燃焼

新しいストーブは慣らし運転が必要です。急激な湿度変化を受けると破損する場合があります。そのため、必ず慣らし運転を行い、鋳物を徐々に熱くはれさせる必要があります。耐久性は、慣らし運転をしなければ大きく変化します。これから示す手順を3~4回繰り返して行ってください。また、ストーブ温度計(オプション)は、口元付近に取り付け本体の温度管理を行ってください。

着火前の用意



● グローブ



● ファイヤーツール



● 温度計



● 着火材



● 太い薪

● 中薪



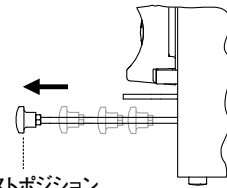
● 細い薪

※十分に乾燥した薪をご使用下さい。

慣らし焚き

乾燥した薪を使用し、ストーブの燃焼システムを良く理解することで、薪を焚く技術は簡単に身につけることができます。

- 1 エアークontrolバーを一番手前まで引きます。



ブーストポジション
(プライマリーエア)

- 2 正面ドアを開け、良く乾いた薪を手前と奥へ2本置きます。



- 3 中央に着火材または新聞紙を置きます。



- 4 着火材の上に6~8本の細い薪を組みます。
着火材または新聞紙の上に焚付を置きます。



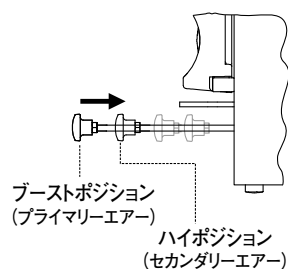
- 5 マッチ及びライターで着火材または新聞紙に火をつけてください。
薪に着火したことを確認し、フロントドアを閉めます。



- 6 10~15分ほどすれば、燃焼が安定してきます。
それから、太い薪を2~3本足します。



※慣らし焚きの際は、ストーブ温度計が200℃以上にならないように、エアークontrolレバーで給気を調節してください。



注意

ストーブ本体を冷ますため、そのまま燃え尽きるまで放置します。

1~6までを3~4回繰り返し行ってください。



注意

● 使いはじめの数回は、ストーブ本体や煙突から臭いと煙が発生します。窓を開けるなど、お部屋の空気を十分に換気してください。

煙が逆流する、うまく燃えない時は

煙が逆流する、うまく燃えないのは、煙突が冷えているからです。煙突が冷えているとドラフト(上昇気流)が発生しにくくなってしまいます。

そんなときはバッフルプレートの手前に火をかざすことで煙突が暖まり、ドラフトが発生しやすくなります。

7 薪の着火と燃焼

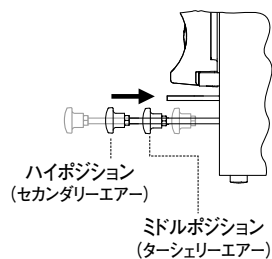
通常運転

3回~4回「慣らし焚き」をした後、
「慣らし焚き」の1~6の手順で着火を行います。

- 7 真っ赤な熾きが炉床全体にできるまで、2本ほど薪を補給します。30分ほどで勢い良く燃えるようになります。



- 8 その後、天板の口元付近の温度が250℃に達したらエアークントロールレバーを絞ります。
(ハイポジション→ミドルポジション)



薪の補給

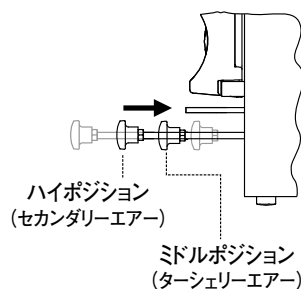
- 1 正面ドアを開け、
ファイヤーツールで熾きを均一に広げます。



- 2 太薪を足しドアを閉めてください。(中薪を足してから太い薪を足すと、素早く着火します。)



- 3 エアークントロールレバーで火力を調節します。
(ハイポジション→ミドルポジション)



- 4 最適温は天板の口元付近の温度が200℃~250℃です。300℃以上継続して使用するとストーブ本体の破損の原因になります。



消火

薪ストーブは、瞬時に消火する事ができません。全ての薪が燃えきったときが消火となります。

消火させるには、エアークントロールレバーを絞り給気を遮断してください。ゆっくりと燃え尽き、消火します。

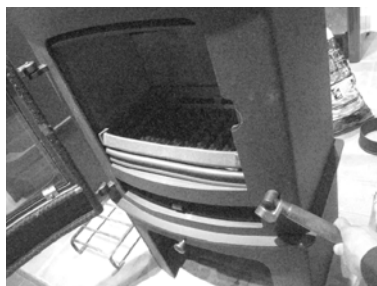


注意

水をかけた消火は危険ですのでお止めください。ストーブが急激に冷却され、破損の原因原因となります。

灰の処理

ハンドルをレバーへ差し、上下して灰を灰受けトレイで落とします。



ハンドルレバーを使い、灰受トレイを引き出してください。

灰は、灰受け皿が一杯になる前に捨ててください。灰受けは付属のハンドルを使って引き出す事ができます。



注意

灰を捨てる際は十分に灰が冷えた時に行ってください。

取り出した灰は、しばらく何日か何日か不燃性の容器に入れ、可燃物との距離を十分に確保し、屋外で保管してください。

8

エアーコントロールと温度計について

エアーコントロールの調整具合は、絶対とは限りません。お客様のストーブ設置状態や設置場所、煙突の長さや薪の質によって異なってきます。使いはじめの際、どのように調節したかを記録しておくことをお勧め致します。1~2週間もすれば様々な状況で最適なセッティングが出来るようになるでしょう。ストーブを長年愛する為に、温度計は大事な役割を果たします。温度計について正しく理解してください。

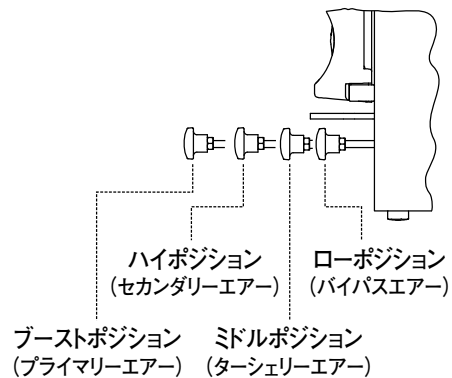
ストーブ温度計について

ストーブ温度計は、ストーブ本来の温度を管理するものです。天板の口元付近で200℃~250℃が最適な運転温度となります。300℃以上で使用し続けると、本体の破損の原因となります。温度が上がらすぎた場合には、薪の補給を止め、エアーコントロールレバーを絞ってください。温度が一時的に超えることもありますが、問題ありません。

エアーコントロールのセッティング

空気の調節はレバー1本で出来ます。エアーコントロールレバーを手前に引くと空気量が増し、レバーを押すと空気量が減り、燃焼スピードは遅くなります。このユニークな4段階燃焼システムは1次燃焼エアーと2次燃焼エアー、3次燃焼エアー、そしてバイパスエアーと1つのレバーで空気量を最適にコントロールできます。今までのような多くのレバー調節は必要ありません。

エアーコントロールポジション



□別売り

温度計

(チャンウッド社製)

HIYH03

販売価格¥6,700

薪ストーブの機能は自然のドラフト(上昇気流)に左右されます。ドラフトは煙突のトップの外気温より、煙の温度が高い時に発生します。その温度差が大きいほどドラフトは強くなります。高い温度の煙が排気されることで、燃焼用の空気をストーブに引き込む吸引力が生じます。エアークontrolによって取り込む空気の量は調整出来ませんが、ドラフトの力がなければ、ストーブに空気を送り込むことはできません。

エアークontrolを全開にした状態にも関わらず、燃焼速度が遅い場合はドラフトが弱い証拠です。煙突の種類や設置場所、外気温などによって煙突は早く暖まる場合もあれば、正常なドラフトが得られる速度に達するまで時間がかかる場合もあります。

煙突設置状態により、強力なドラフトを発生させられるか、最適な温度を長時間維持できるかによって、薪ストーブの効率に大きな影響を与えます。煙突の種類によってストーブ性能に与える影響についてご紹介します。

ステンレス製の煙突

工場生産されているステンレス製の煙突の多くは、断熱効果のある断熱材の層があります。断熱材の層により、煙を保温しているので、熱が伝わりにくくなっています。そのため、周囲の構造物を熱から守ります。ステンレス製の煙突は、レンガ・石造りの煙突に比べ熱伝達が早く、ドラフトが十分に発揮できますので、ステンレス煙突のほうが耐久性・性能共に高いです。また、外観をレンガ・石作り風に仕上げることができます。

レンガ・石造りの煙突

レンガ・石造りの煙突は、伝統的な煙突ですが、気密性の高い近代的な薪ストーブを使う場合、効果はあまり期待出来ません。石やレンガは性質上長時間燃やしていると、大量の熱を吸収・蓄熱します。しかし、熱の落ち込みも早く強いドラフトを発生させるには相当の時間と熱量が必要となります。

煙突のサイズ

ストーブの排気口と、煙突のサイズは同じでなくてはなりません。煙突のサイズがストーブの排気口より小さくなると排気ガスは希薄され、温度が下がり、ドラフトも弱まります。ドラフトを発生させるための熱量は、煙突の直径が大きくなるほど多く必要になり、暖まるまでに時間がかかり、溜まってきた熱量が少しずつ消費されてしまいます。煙の逆流などを防ぎ、ストーブ本来の性能を発揮させるため、ストーブの排気口と合った煙突をご使用ください。

煙突の設置場所

煙突は、住宅内部を立ち上げるのがベストです。煙突の性能は排気温度が高い状態のまま排出することです。この方法は、外気の影響を受ける事無く、煙突からの放射熱でお部屋を暖めます。屋外に逃げる熱が少ないということは、ストーブの熱のロスが少なくてすみ、燃費を抑えることができます。

煙突のレイアウト

煙は煙突のトップまで上昇する時に、ストーブから煙突のトップとの間に曲がりがあるたびに速度が落ちます。ストーブから垂直にまっすぐ伸ばす方法が、理想的な煙突のレイアウトです。室内のシングル煙突を使用する長さは、ストーブ口元から2.5mまでとします。これより長い場合、煙が冷却され、ドラフトが弱まりクレオソートが発生する原因となります。

9 ドラフト管理

クレオソート

クレオソートは、特に湿った薪がゆっくり燃焼した時に生じます。ドラフトが弱く、煙の濃度が高い、または、煙が149℃以下になると煙突内に蓄積される有機タールです。蓄積されるクレオソートは揮発性のため、一定の温度以上に加熱されると、煙道火災を引き起こす原因となります。

クレオソートの蓄積量は煙突のドラフトを左右します。最適な煙突のレイアウト、最適な薪の使用、ストーブの適切な運転動作でドラフトを高め、クレオソートの発生を最小限に抑える使い方をしてください。

燃料

ストーブが最適な方法で設置されていても、燃料の質が悪いと効果が出ません。最適な燃料は、12～18ヶ月間乾燥させた広葉樹です。広葉樹が理想的ですが、針葉樹でも問題ありません。しかし、針葉樹は広葉樹と比べると火持ちがよくありません。また、クレオソートの原因となる樹脂を多く含んでいます。

乾燥させていない生木は、水分を多くふくんでいるため、燃やしたとしても熱量が水分を蒸発させるために使われてしまいます。その結果、暖房効果が得られず、排煙温度の上昇が見込めず、クレオソート発生につながります。

水分の量は、見た目や重さからも判断できますが、市販の含水計を使用することで正確に計る事ができます。

乾燥していない薪の重量は、乾燥している薪の3倍です。また、水分量は薪の切り口を観察することで判断できます。乾燥している薪は伸縮し、ひび割れが出てきます。ひびの入った薪ほど、乾燥してるということになります。

バックパフィン(空気の逆流)

バックパフィンとは、ドラフトが弱く燃焼速度に合わせて煙を排出できないときにおこる現象です。炉内で発生した煙の濃度・温度が一定の値に達した時に点火され、煙が空気取り込み口より出てきます。

バックパフィンは弱火で燃焼させるような春先に起こります。バックパフィンが起きた場合には、エアークントロールを全開にし、空気をたくさん取り込み、勢いよく燃えるようにしてください。また、低燃焼時に沢山の薪を投入すると未燃焼ガスが多く発生しバックパフィンが起こります。

負圧

最適なドラフトを生むためには、ストーブへの十分な給気が必要となります。煙突は、自然に得られる空気だけを引き込む事ができます。室内の空気を屋外に排出させる排気設備機器(レンジフード、衣類乾燥機、機械換気設備など)がストーブと空気を取り合う場合や、住宅の気密性が高く、ストーブの給気が妨げられる場合、ドラフトの障害となります。

窓やドアを開けなければ十分な空気を得られない場合、壁や床に燃焼用空気を取り込む給気口を設ける必要があります。

ドラフト管理

ストーブで薪を燃やすということは、非常にシンプルな事です。空気の量が多ければよく燃え、少なくすれば火は小さくなります。

焚き始めの空気量と、安定した空気量さえわかれば、より快適なストーブライフを送る事が出来るでしょう。

メンテナンス【スケジュール】10

ストーブ本体及び煙突を未永くお使いいただくためには、定期的にメンテナンスをすることが必要となります。

下記スケジュールを参考にしてメンテナンスを行っていくことをお勧めします。

また、メンテナンスの項目の中には、ストーブ販売店に依頼する内容も含まれております。

販売店名が記入されている保証書を大切に保管してください。

シーズン中のお手入れ		
点検項目	要領	方法
ドアガラスの清掃	煤・タールの除去・破損の有無	P.33参照
灰受け皿	溜まった灰の処理	P.27参照

シーズン終了後または前のお手入れ		
点検項目	要領	方法
煙突の点検	煙突内部の煤・タールの除去	P.35参照
炉内の掃除と点検	灰・タール・煤の除去	P.32参照
内部ガasketの点検	劣化・剥がれの点検・交換	P.34参照
ドア調整	密閉具合の点検・調整	P.34参照

シーズンオフ	
春	ストーブ炉内に灰を残しておくとし湿気が溜まり、サビの原因となるので全て取り除く。
夏	バイパスダンパー及びエアコントロールを全開にし、煙突内の空気を常に対流させておく。
秋	上記シーズン前のお手入れ
冬	シーズン中のお手入れ

※ご使用状態により、メンテナンス費用が異なります金額を確認してから、ご依頼ください。

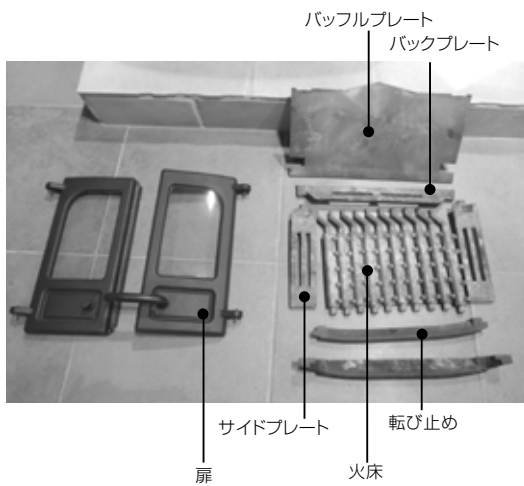
※上記は取扱説明書に従った適正な使用状態での標準メンテナンス・スケジュールとなります。

よって、お客様のご使用状態によってはメンテナンス時期が異なるケースもあります。

上記スケジュールを参考にして、ご自身でスケジュール管理を行ってください。

11 メンテナンス【本体の掃除とお手入れ】

本体のバラしかた



1 扉を外します。



2 転び止めを外します。



3 サイドプレート、バックプレート、火床を外します。



4 バッフルプレートを外します。



5 掃除機またはハケ・ブラシで灰を落としてください。



ガラスのクリーニング

- 1 薪ストーブが十分に冷えていること・燃焼中の薪が無い事を確認します。



- 2 ガラスクリーナーを使って汚れを落とします。
内側のガラスにクリーナーを適量つけます。



- 3 クリーナーを乾いた布などでよく拭き取って下さい。

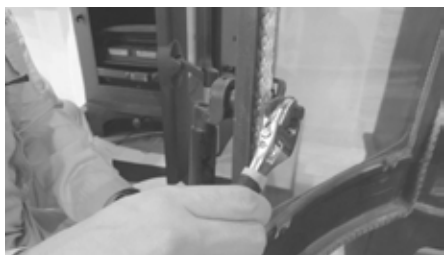


【本体の掃除とお手入れ】
メンテナンス

11 メンテナンス【本体の掃除とお手入れ】

ガスケットの点検と交換

- 1 扉とボディの間へお札などの紙を挟んで扉を閉めます。お札が挟まらず抜けるようでしたらガスケットロープが硬くなっており気密性が落ちる原因ですので交換をしてください。



ドアノブのボルトのゆるみを確認→増締

- 2 古ガスケットロープを取り外します。



- 3 こびりついて残っているシリコンは、ドライバーなどの先を当て、削ぎ落としてください。



- 4 溝をワイヤーブラシできれいにし、ハケなどで取り除いてください。



- 5 別売りの耐熱ボンドを溝へ充填します。



- 6 塗り終わったらガスケットを引っ張らずに置くように貼付けます。最後は、はみ出さないようにハサミなどで切って締めて下さい。



コーベシリーズのハンドルについて

- 7 燃焼中はハンドルを扉からはずして使用ください。(コゲ、破損の原因になります。)



メンテナンス【煙突の掃除とお手入れ】 12

本体の手入れよりも大切なのが、煙突掃除です。煙突にタールや煤が溜まっていると、煙道火災の危険性が高まります。最低でも、年に一度は煙突掃除を行うことをおすすめします。

また、高所での作業は危険を伴います。無理と判断した場合、お買い上げ頂いた販売店へご依頼ください。

掃除・お手入れの準備



ヘルメットやロープなどはお近くのホームセンターなどでご用意ください。煙突ブラシなどの煙突掃除用アイテムは、専門店でご購入できます。

- 煙突用ブラシφ150mm
- 煙突用ブラシ用延長棒
- ハンドブラシ
- ロープ
- ヘルメット
- ゴーグル
- ブルーシート
- 大きいビニール袋


● バッフルプレートを外して煙突掃除

チャーンウッドはバッフルプレートを取り外すだけで煙突掃除が出来ます。



● 煙突トップから行う場合

煙突をトップからはずす

- 1  煙突とトップをつなぐロッキングバンドを外します。

- 2  ロックがかかっているため、回転させてからトップを外します。



注意

タールや煤が付着して外しにくい場合があります。トップを叩き、それでも外れない場合は、潤滑油を吹きかけて下さい。

【煙突の掃除とお手入れ】
メンテナンス

12 メンテナンス【煙突の掃除とお手入れ】

ブラシで掃除する

1 煙突窓に適したブラシをご用意ください。

2



ブラシを差し込み、上下させながらブラッシングします。徐々に下方へ押し入れます。
必要に応じてロッドを継ぎ足してください。

4



大きいビニール袋にロッドを通し、袋の中でブラシを取り付けてください。

5



ブラシを差し込み、上下させながらブラッシングしてください。徐々に上方へ押し入れます。

●室内から行う場合

屋内の煙突を外す

1



煙突とストーブ本体を接続しているビスを外します。煙突を持ち上げると外れます。外した煙突は屋外屋外へ運び出してください。

2



シングル煙突から二重断熱煙突に変わる接続(アダプター)を外すため、ロッキングバンドを外します。

3



回転させてロックを解除し、アダプターを外します。

6



ロッドを必要に応じて継ぎ足してください。

トラブルシューティング 13

トラブル	原因	対処法
薪が燃えない	薪が湿っていませんか？	十分に乾燥した薪を使用してください。薪については、22ページをご参照ください。
	太い薪のみ使用していませんか？	焚き始めは細い薪に着火し、徐々に太い薪をくべてください。薪の着火と燃焼については24ページをご参照ください。
	燃焼用空気を絞っていませんか？	エアークントロールレバーを全開にしてください。
	煙突が詰まっていますか？	煙突掃除を行ってください。煙道火災を防ぐ為にも定期的な点検及び、メンテナンスが必要です。また、低温度域で使用した場合や不十分に乾燥されていない薪を燃やした場合、ヤニが多く燃え残り、煙突に付着してしまうことがあります。
	換気扇を使用していませんか？	薪ストーブを焚く際、換気扇を使用していると、煙突内の上昇気流力が弱まり、燃えにくい場合があります。換気扇の使用を止めるか、窓を少し開けてください。
薪が早く燃えてしまう	着火用のブーストポジション（プライマリーエアー）のまま焚いていませんか？	天板口元付近のストーブ温度計の温度が200℃～250℃に達していることを確認し、エアークントロールレバーを調節してください。 ※アイランドシリーズ、コーヴェシリーズにはバイパスエアーシステムの機能があり、たとえエアークントロールが閉められていても、バイパスエアーによって少量のエアーがストーブに入り、とろ火でも排気をクリーンに保つことが可能です。
	ドアを開けたまま焚いていませんか？	ドアを開けたまま燃焼させると、空気を大量に取り込み、薪が早く燃えてしまいます。フロントドアが閉まっていることを確認の上、ご使用ください。
	ドアパッキン(ガスケット)が消耗していませんか？	ガスケットを交換してください。ガスケットが消耗していると、隙間から空気を取り込み、薪が早く燃えてしまいます。

13 トラブルシューティング

トラブル	原因	対処法
煙が逆流する	煙突が詰まっていますか?	煙突掃除を行ってください。煙道火災を防ぐ為にも定期的な点検及び、メンテナンスが必要です。
	換気扇を使用していませんか?	薪ストーブを焚く際、換気扇を使用していると、煙突内の上昇気流力が弱まり、燃えにくい場合があります。換気扇の使用を止めるか、窓を少し開けてください。
	煙突トップ付近で強風が吹いていませんか?	強風が吹くことで煙が逆流する場合があります。
	曲がりが多い・横引きが長い煙突設置ではありませんか?	煙突は、曲がりの数が多い場合や横引きが長い場合、上昇気流の障害となります。その結果、煙突が冷えやすく、煤やタールが溜まりやすくなります。煙突をしっかりと暖めて、上昇気流を強くしてください。
	煙突は短すぎませんか?	煙突の高さが4m未満の場合、上昇気流が弱く、室内に煙が逆流してしまうことがあります。
温度が上がらない	薪が湿っていませんか?	十分に乾燥した薪を使用してください。薪については、22ページをご参照ください。
	薪の量が少なすぎませんか?	長時間燃やす為の太い薪(直径10cm以上)を3本以上入れて様子を見てください。また、本体が暖かいのにお部屋が一向に暖まらない場合は、お部屋に対してのストーブ容量が不足していると考えられます。
	燃焼用空気を絞っていませんか?	エアークントロールレバーを全開にしてください。

トラブル	原因	対処法
ガラスが ひどく曇る	薪が湿っていませんか？	十分に乾燥した薪を使用してください。薪については、22ページをご参照ください。
	空気調整レバーを絞るタイミングが早くないですか？	低温状態で空気を絞ると、不完全燃焼となり、煤やタールが発生しやすくなります。
	バイパスダンパーを閉めるタイミングが早くありませんか？	ストーブ温度計の温度が200℃に達していることを確認し、エアークontrolレバーを調節してください。
	煙突が詰まっていますか？	煙突掃除を行ってください。煙道火災を防ぐ為にも定期的な点検及び、メンテナンスが必要です。
	フロントドアが少し開いていませんか？	フロントドアをきちんと閉めてください。
煙突が早く 詰まって しまう	乾燥した薪を使用していますか？	しっかり乾燥した薪を使用してください。入手が困難な場合は細かく割ってご使用ください。
	焚く温度が低すぎませんか？	低温度域で使用すると、不完全燃焼となり、煤やタールが発生しやすくなります。ストーブを焚く場合は、ストーブ温度計200℃以上でご使用ください。
	曲がりが多い横引きが長い煙突設置ではありませんか？	煙突は、曲がりの数が多い場合や横引きが長いお上昇気流の障害となります。その結果、煙突が冷えやすく、煤やタールが溜まりやすくなります。煙突をしっかり暖めて、上昇気流を強くしてください。

14 保証とアフターサービス

修理を依頼される前に

まず初めにトラブルシューティングで確認してください。トラブルシューティングに無い異常や破損がある時は、ご使用をやめ、施工された工事店もしくはアドヴァンまでご相談ください。

修理に関するご相談について

故障・修理あるいは部品のお取り替えに関するご相談、ならびにご不明な点は、施工された工事店もしくはアドヴァンまでご相談ください。

保証書について

保証書は、取扱説明書に同封してあります。販売店名の記入をご確認いただき、お客様情報をご記入の上、弊社までお送りください。記入もれがありますと、保証し兼ねる場合がありますので、ご注意ください。また、保証書は内容をよくお読みになった後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、保証書に記載されている期間となります。この期間中、取扱説明書の指示に従った正常な使用状況で問題が発生した場合は、保証書の規定に従って修理致します。保証期間が過ぎている場合は修理できる範囲内で有料にて修理致します。施工された工事店もしくはアドヴァンまでご相談ください。

